

誰もが楽しめるスポーツ施設運営をめざして

障害者のスポーツ 施設利用促進 マニュアル



概要

- 平成27年度に、障害者の施設利用に際し、**施設管理者等が配慮すべき点をまとめたマニュアル**を作成し、区市町村等に普及
- 本マニュアルは、工事を伴うような**ハード改修ではなく簡易な備品購入やソフト対応**などの好事例等を紹介
- 今年度、東京2020大会や障害者差別解消法の改正等を契機に進められた**新たな事例を収集し改訂**



改訂のポイント

- 都内スポーツ施設等に対するアンケート・ヒアリング調査の結果等を踏まえ、学識経験者や障害当事者、施設関係者など全16名からなる検討委員会にて内容を審議し、改訂

※ アンケート調査対象：

都内公立スポーツ施設

スポーツ施設を併設した都内社会福祉施設・健康増進施設

都内民間スポーツ施設

全国障害者スポーツ施設センター連絡協議会加盟の施設

アンケート回収数：794件（回収率59.6%）



検討委員会の様子

全体構成

第1章 東京2020大会のレガシー【新規】

第2章 障害の理解とコミュニケーション

第3章 施設利用の前に

初回利用・問合せ時の確認ポイント

駐車場

身体障害者補助犬

ホームページ

第4章 共用施設の利用

受付

ロビー・廊下・共用スペース

更衣室

トイレ

シャワー

緊急時の対応

第5章 スポーツ施設の利用

体育館

トレーニング室・ジム

プール

その他屋外施設

第6章 誰でも一緒に楽しめるスポーツ ～パラスポーツの魅力～【新規】

第7章 障害者差別解消法【新規】

第8章 地域における取組事例【新規】

ICTの活用【新規】、Q&A、問合せ先 等

主要内容①

第1章 東京2020大会のレガシー

誰もが使いやすい施設を整備するために、利用者目線に立ち、当事者意見を聞くことの重要性を紹介(P4)

● 施設整備では障害のある人等の意見を反映

誰もが使いやすい施設を整備するためには、利用者目線に立ち、障害のある人の意見を聞くなどコミュニケーションをとりながら進めることが重要です。

都が整備する大会競技会場については、競技会場等に適用されるバリアフリー基準となる「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえるとともに、障害者団体や学識経験者などから成る「アクセシビリティ・ワークショップ」を設置し、設計段階において車いす使用者席やトイレなど様々な項目について意見をいただきながら整備を進めました。



東京2020大会をきっかけに始めた施設でのパラスポーツの普及の取組を紹介(P7)

● パラスポーツの普及啓発



（亀戸スポーツセンター（荒川区））

東京2020大会で様々なパラスポーツが注目され、各スポーツ施設では普及啓発に関する取組が進んでいます。

亀戸スポーツセンター（江東区）では、「東京2020大会継承事業」としてポッチャを誰でも気軽に体験できるよう、受付横のロビーに「ミニポッチャ体験スペース」を設けています。

第2章 障害の理解とコミュニケーション

視覚障害や聴覚障害などの障害種別ごとに、障害の理解やコミュニケーションのポイントなどを紹介(P8)

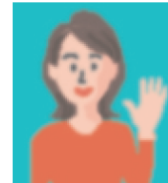
○ 視覚障害

視覚障害には、まったく見えない「全盲」、見えにくい又は多少は見える「弱視」、特定の色がわかりにくい「色弱」があります。

見えにくさも、「細部が見えない」「視野が狭い」「視野の一部が欠けている」など様々で、周囲の明るさなどの環境によっても異なってきます。



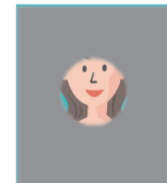
正確な見え方



ぼやける



まぶしくて見づらい



視野の中心部しか見えない



視野の周辺部しか見えない

○ 聴覚障害

手話の挨拶



こんにちは

- ①人差し指と中指を立て、眉間に当てる
- ②両手の人差し指を向かい合わせて立て、おじぎをするように折り曲げる



おつかれさま

- ①左の手のひらを下に倒して、グーにする
- ②右の手もグーにして、左手首を軽く2回叩く



ありがとう

- ①右手の小指側で左手の甲を軽く叩く
- ②右手を上上げる

参考：東京都福祉保健局「話そう手のことば～手話動画～」

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shougai/koho/shuwadoug.html>

主要内容②

3章 施設利用の前に

障害のある人が施設を利用する前に、必要な情報が見つかりやすくなるよう、トップページにバリアフリー情報等のページへのリンクバナーを設置するなどの工夫を紹介(P24)

施設のバリアフリー情報等を伝える専用ページのバナーをトップページに設けています。



〔江戸川区スポーツセンター〕



〔東京体育館〕

4章 共用施設の利用

障害のある人が受付しやすい例を写真を使用して紹介(P27)

● 障害のある人が受付しやすい例

筆談ボードなどはわかりやすい場所に置きましょう。また、記入がしやすいようスペースを確保しましょう。

杖を使用する人が受付しやすいよう、杖置き場を設置しましょう。

受付に耳マークの表示があると、聴覚障害のある人は安心して訪れることができます。



〔東京都障害者総合スポーツセンター〕

車いすの人や立位の人が使いやすいよう高さの違うテーブルを設置しましょう。



施設の場所がわかるようイラストで表示しましょう。

主要内容③

5章 スポーツ施設の利用

各施設で実際に行われている工夫について紹介(38)

● 靴の取り間違え防止

室内履きに履き替える際の靴の取り間違えを防止するため、置き場所を「番号」と「色分け」で表示しています。知的障害のある人も、色分けすることで自分の靴の置き場所が明確になり、似たような靴の取り間違いの防止につながります。



【大阪市立舞洲障がい者スポーツセンター】



乗り降りを楽しむ踏み台
【堺市立健康福祉プラザスポーツセンター】



握力が弱い人のサポートとなる、ウレタン製の補助グローブ
【東京都障害者総合スポーツセンター】



ランニングマシンの手すりに伴走者代わりにロープ

スポーツ用車いすの正しい理解と認識を深めるとともに、床の適切な維持管理方法を紹介(P40)

● スポーツ施設管理者向けトラブルシューティング

① プレーキ痕

専用のラパークリーナー（溶剤タイプのクリーナー）による清掃を行います。

② 凹み痕

補修方法はバレーボールやバドミントンコートの支柱を立てる金具の周囲の凹み痕と同様で、損傷度に応じた対応になり、パテによる補修を行います。補修できない場合は、ライン消し用テープによる表面を覆い、損傷が広がらないように注意します。ただし損傷の程度によっては、業者と相談し改修してください。



床の損傷を補修した様子

6章 誰でも一緒に楽しめるスポーツ

パラスポーツはルールや用具を工夫することで誰でも楽しむことができるスポーツであることを紹介(P50)

ルールを工夫して楽しむ

● ふうせんバレーボール

バドミントンコートにそれぞれ6人ずつ入り、ネット越しに両チームが直径40cmのふうせんを打ち合う競技です。障害のある人とない人とが一緒にチームを組み、チーム全員がボールに触れてから、相手コートにボールを返すので、障害の有無にかかわらず誰でも一緒に楽しめます。

ルールをアレンジ

ネットの高さを下げ、床に座ることでシッティングふうせんバレーとしても楽しめます。転倒の心配が軽減され、安全に行える工夫です。



（一社）オールスマイル東京ふうせんバレーボール振興委員会
<https://smile-all.com/18614/>



● 水泳

障害の程度が重い人や複数の障害がある人もプールを楽しんでいます。普段は体を動かすことが難しくても、水中では浮力により、大きく動かすことができます。様々な浮き具を使用することでリラックスしながら浮き、進むことができます。



● ハンドサッカー

ハンドサッカーは東京都の肢体不自由養護学校（現・特別支援学校）で生まれたスポーツで、障害の種別やその程度は問わずに誰でも参加でき、男女の区別もありません。

ポジション、ボールを保持できる時間、シュート方法は選手の障害種別や程度に合わせるルールになっており、できるポジションで、できるプレーをしていくことが魅力です。



主要内容④

7章 障害者差別解消法

対話の重要性や施設での環境整備の事例を紹介(P54)

対話の重要性

合理的配慮の提供においては、双方が建設的に対話し、合意できる方法を模索することが重要です。利用者はどのような配慮を必要としており、施設はそれにどう対応できるのかなど対話をする事が双方の理解につながります。



利用者の立場に立った視点で改善

上石神井体育館では、駐車場から施設入口までの通路の脇に花壇があり、車いすが通れる幅は十分に確保されていませんでした。

車いすを使用する人からは、特に改善を求める声は上がっていませんでしたが、駐車場から一度公道に出て歩道を通り施設に入る様子を見た施設スタッフが、花壇があるため車いすが通れないことに気づき、撤去に向けて速やかに対応しました。



<撤去前>
〔上石神井体育館(練馬区)〕

<撤去後>

8章 地域における取組事例

障害のある方の施設利用の受入れに積極的なスポーツ施設を紹介(P58)

利用者の声



保坂 琢夫さん
(脳性まひ)

スタッフの皆さんそして他の利用者さんともよくお声をかけてくださり、楽しく利用しています。また、スタッフの皆さんは私が見える位置で見守ってくださっているので、安心して利用しています。

施設スタッフの声



武蔵野総合体育館
トレーニング室スタッフ
宇田川 泰明さん

私たちが心がけているのは毎日の体調をお聞きすること、近くで見守っていることです。他の利用者の方も保坂さんのことを気にかけてくれるので、安心していきますし、ご自身も話をしながら楽しくトレーニングしていただいていると思います。

ICTの活用

利用者の利便性が向上するデジタル技術を活用したコミュニケーションツールを紹介(P62)

遠隔手話サービス

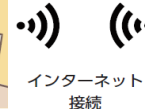
「遠隔手話サービス」は、スマートフォンやタブレット端末を通じて、手話を使うきこえない人ときこえる人をつなぐサービスです。(聴覚障害者情報提供施設や民間企業が提供)

※遠隔手話通訳…都道府県および区市町村の意思疎通支援事業(派遣事業あるいは設置通訳事業)等を活用した通訳場面を指す。遠隔手話サービス…企業等がろう者等の顧客に対し、タブレット等を用いて手話言語でコミュニケーションあるいは手話通訳により対応をする場面を指す。

(出典:2020年11月27日 遠隔手話通訳に対する基本的考え方について(見解)一般財団法人全日本ろうあ連盟)



利用者側



インターネット
接続



通信者側

今後の取組について

① 本マニュアルをスポーツ施設に対して広く普及

【区市町村】

- ・ **パラスポーツの専門知識を有するアドバイザーが助言等を実施**

【区市町村・民間】

- ・ 障害の理解や配慮のポイント等に関する**研修**を実施
- ・ スポーツ施設に**マニュアルを配布**（約2,000件）

② 各障害種別の配慮ポイントをまとめた動画を紹介



利用者本人の意思を確認して、必要であれば誘導しましょう

視覚障害者を誘導する際のポイントを動画で紹介



車いす使用者は、階段や段差があると自力では移動が困難です

段差を越える際のポイントを動画で紹介

障害のある方の身近な地域のスポーツ施設の利用を促進